

報告タイトル

江沢民期の国防建設：空軍現代化を中心に
“National Defense Construction in the Jiang Zemin Era
: Focusing on Air Force Modernization”

氏名（所属）

相田 守輝（防衛研究所）
AITA Moriki (National Institute of Defense Studies)

要旨（800 字程度）

1989 年に中国共産党中央軍事委員会主席に就任した江沢民は、軍歴もなく人民解放軍（PLA）との繋がりも殆どなかった。一方、江沢民が国防建設を推進した 1989 年から 2004 年の期間は、改革開放政策に伴い中国が急激に経済発展をしていった時期でもあった。

江沢民期の国防建設に関する先行研究では、ソ連崩壊、湾岸戦争、第三次台湾海峡危機など激変する安全保障環境の中で、中国が PLA をどのように改革してきたか、又は国防産業がどのように経済発展に寄与したかなどの議論が大半を占めている。しかしながら、これらの研究は経済成長に伴う海軍力強化が中国国内で叫ばれたことから、海軍や造船産業の発展に焦点をあてた議論が大半であり、一方で空軍や航空機産業の発展に関する議論は不足したままである。その為、江沢民期の国防建設において PLA 空軍がどのように現代化していったのかを十分に説明できていない。

そこで本報告では、PLA 空軍に焦点をあてながら、航空機産業の発展と PLA 空軍の能力向上の関連について説明を試みる。

報告では第 1 点目として、テクノラート出身の江沢民が国防産業を発展させようとする中で航空機産業にも強い関心を持ち、官僚的な手法によって質の高い PLA 空軍の建設に資する制度化を行っていったことを指摘する。

第 2 点目として、江沢民による政治指導によって海外からの先端技術が導入され、先端技術を吸収した航空機産業が独自の技術力と生産力を高めたことから、PLA 空軍の能力が向上していったことを指摘する。

（690/800 字）